

# WHO news February 2023

2023年2月1日

## [Launch of global individual patient data platform for tuberculosis treatment](#)

WHO is announcing the publicly accessible [global individual patient data \(IPD\) platform for tuberculosis treatment \(TB-IPD\)](#), an initiative that will increase the knowledge base for normative guidance on optimal treatment modalities for tuberculosis (TB) and stimulate TB research. .

### 結核治療のための「グローバル患者個人情報プラットフォーム」提供を開始

WHO は、結核治療に関する世界規模の個人患者データ (IPD) プラットフォーム (TB - IPD) を公開しました。

このプラットフォームは、結核の最適な治療法に関する規範的ガイダンスのための知識ベースを増やし、結核研究を活性化するためのもので、世界中の結核研究者がデータを再利用し、結核研究の可能性を最大限に引き出すための貴重なリソースとなります。これには、すでに 5,000 人以上の結核患者の治療成績が記録されており、2023 年中には 50,000 人にまで増やすことが予定されています。

---

2023年2月2日

## [African leaders unite in pledge to end AIDS in children](#)

Ministers and representatives from twelve African countries have committed themselves, and laid out their plans, to end AIDS in children by 2030. International partners have set out how they would support countries in delivering on those plans, which were issued at the first ministerial meeting of the [Global Alliance to end AIDS in children](#)..

### アフリカの指導者たちが、子どもたちのエイズ撲滅を誓う

アフリカの 12 カ国の閣僚および代表者は、ダルエスサラーム宣言を全会一致で承認し、2030 年までに子どもたちのエイズをなくすことを約束し、その計画を打ち出しました。

HIV とともに生きる子どもたちの半数 ( 52 % ) しか救命治療を受けておらず、4 分の 3 ( 76 % ) が抗レトロウイルス薬の投与を受けている成人に大きく遅れをとっています。2021 年には、16 万人の子どもたちが新たに HIV に感染しました。HIV 感染者全体の 4 % が子どもであるにもかかわらず、エイズ関連死亡者全体の 15 % を子どもが占めています。

タンザニアが主催した「子どものエイズをなくすためのグローバル・アライアンス」の第 1 回閣僚会議は、HIV に感染したすべての子どもたちが命を救う治療を受けられるように、また HIV とと

もに生きる母親が HIV に感染していない赤ちゃんを産めるようにするための行動のステップアップを意味するものです。アライアンスは、2030 年の目標を達成するために、今後 7 年間にわたり進捗を推進する予定です。

---

2023 年 2 月 2 日

## [Global status report on physical activity 2022: country profiles](#)

These country profiles present progress on implementation of policy recommendations of the Global Action Plan on Physical Activity (GAPPA) 2018-2030 in each country. They also present an estimate of the cost to health systems of not taking action to improve physical activity levels and reinforce the urgency to position physical activity as a shared, whole-of-government priority, and to strengthen coordination and partnerships to promote physical activity.

### **身体活動に関する世界現状報告 2022 : 国別プロフィール**

この国別プロフィールは、各国における身体活動に関する「グローバル・アクション・プラン (GAPPA : Global Action Plan on Physical Activity) 2018 - 2030」の政策提言の実施状況を紹介しています。そして、身体活動レベル向上のために行動を起こさない場合の健康システムへのコストの見積もりを示し、身体活動を政府全体で共有する優先事項として位置づけ、身体活動促進のための調整とパートナーシップを強化することの緊急性を強調しています。

---

2023 年 2 月 2 日

## [Integrating health in urban and territorial planning: a sourcebook](#)

This sourcebook aims to detail why health needs to be part of urban and territorial planning and how to make this happen. It brings together two vital elements we need to build habitable cities on a habitable planet: 1) Processes to guide the development of human settlements – in this document referred to as “urban and territorial planning (UTP)”； and 2) concern for human health, well-being and health equity at all levels – from local to global, and from human to planetary health..

### **都市・地域計画における健康の統合 : ソースブック**

このソースブックは、人間居住の開発を導くプロセス (本書では「都市・地域計画 (UTP : urban and territorial planning) 」と呼ぶ) に、健康を組み込むための既存のリソースやツールを包括的に選定し、アドボカシーの枠組み、エントリーポイント、ガイダンス、ツールや例示的なケーススタディなどを掲載し、なぜ健康を都市・地域計画の一部とする必要があるのか、それを実現する方法を詳しく説明することを目的としています。

そして、以下の 2 点が必要不可欠な要素となっています。

1. 人間居住の開発を導くプロセス

2. 地域から世界、そして人間から地球環境全体まで、あらゆるレベルにおける人間の健康、ウェルビーイング、健康の公平性への関心

また、意思決定者、都市のリーダー、プランナー、健康専門家のための追加ツール、文献資料も取り上げています。

---

2023年2月3日

## [Statement of the thirty-fourth Polio IHR Emergency Committee](#)

Although encouraged by the reported progress, the Committee unanimously agreed that the risk of international spread of poliovirus remains a Public Health Emergency of International Concern (PHEIC) and recommended the extension of Temporary Recommendations for a further three months. The Committee considered the following factors in reaching this conclusion:

### **ポリオ：国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）勧告を3ヶ月再延長**

1月25日、国際保健規則（IHR）に基づく第34回ポリオウイルス国際流行に関する緊急委員会が開催され、ポリオウイルスの国際的な広がりリスクが依然として国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）であることに全会一致で合意し、暫定勧告をさらに3ヶ月間延長するよう勧告しました。

WPV1（野生型ポリオウイルス1型）は、パキスタン国内で感染が広がっており、また、cVDPV2（伝播型ワクチン由来ポリオウイルス2型）もイエメン等の発生状況からみて国際感染拡大のリスクは継続中と判断したものです。

---

2023年2月6日

## [WHO launches new roadmap on breast cancer](#)

The World Health Organization (WHO) released a new [Global Breast Cancer Initiative Framework](#) today providing a roadmap to attain the targets to save 2.5 million lives from breast cancer by 2040.:

### **WHO、新ロードマップ「グローバル乳がんイニシアチブフレームワーク」を発表**

2月4日は「ワールドキャンサーデー」です。

乳がんは毎年230万人以上が発症しており、成人のがんの中で最も多いがんです。95%の国で、乳がんは女性のがんによる死亡原因の第1位または第2位となっています。しかし、乳がんによる生存率は、国によっては地域により大きく不平等であり、乳がんおよび子宮頸がんによる死亡の約80%は、低・中所得国で発生しています。

WHOは、2040年までに乳がんから250万人の命を救うという目標達成のためのロードマップを

示す、新しい「グローバル乳がんイニシアチブフレームワーク」を発表しました。  
この新しいフレームワークは、目標達成のために、乳がんの早期発見、適時診断、包括的管理のための健康増進の 3 本柱を実施するよう各国に推奨し、中低所得国において乳がん医療を提供するためのもので、具体的な重要業績評価指標とともに、3 つの行動の柱を概説しています。

- 乳がん早期発見プログラムに注力するよう各国に提言
- 初診時 60 日以内に乳癌と診断し、初診から 3 ヶ月以内に治療を開始すること。
- 乳がん患者の 80 % 以上が推奨された治療を完了するよう管理すること。

---

2023 年 2 月 6 日

## [WHO publishes two landmark documents on leishmaniasis](#)

In its global efforts to control the impact of leishmaniases, the World Health Organization (WHO) has published for the first time two key guidance documents for programmes and researchers: a report of a multi-centre laboratory study and WHO expert consultations on determining discriminating concentrations of insecticides for monitoring resistance in sand flies, and an operational manual on leishmaniasis vector control, surveillance, monitoring and evaluation.:

### **WHO : リーシュマニア症に関する 2 つの画期的な文書を発表**

WHO は、砂地に生息する吸血性の小ハエの一種（日本語ではサシチョウバエ）が媒介するリーシュマニア症の影響を抑制するためのグローバルな取り組みにおいて、プログラムおよび研究者向けの 2 つの重要なガイダンス文書を初めて発表しました。

1. サンドフライの耐性モニタリングのための殺虫剤の識別濃度決定に関する多施設実験研究報告および WHO 専門家協議
2. リーシュマニア症ベクターコントロール、監視、モニタリングおよび評価に関する運用マニュアル

リーシュマニア症の予防、制御、撲滅対策におけるベクターコントロール（媒介害虫駆除）は、不十分な資源、介入の有用性を示す科学的証拠、品質を保證する実施能力の低さといった点から、最も弱い状況であると認識されています。

このオペレーションマニュアルは、リーシュマニア症対策プログラムの実施を改善するために、サンドフライ対策とサーベイランスを強化するための実用的なツール、技術、手順を提供するものです。

---

2023 年 2 月 7 日

## [Global health leader Germany reaffirms strong support to WHO for 2023](#)

Germany's Federal Ministry of Health (BMG) today announced a €130 million contribution to the

World Health Organization for 2023, reinforcing Germany's role as a global health leader and one of WHO's strongest supporters..:

## **ドイツ : 2023 年も WHO への強い支持を再確認**

ドイツは、2020 - 2021 年の 2 年間では、WHO の最大の全体拠出国、2022 年には第 2 位の拠出国となり、COVID-19 ワクチン、検査、治療法を迅速に開発、生産、公平に分配するための世界的な協力である ACT-アクセラレーターへのトップ拠出国となっていました。

ドイツ連邦保健省 (BMG) は、2023 年の WHO への 1 億 3,000 万ユーロの拠出を発表しました。

この拠出は、薬剤耐性、健康緊急事態、健康システム強化、WHO 改革などの主要な優先分野において WHO を支援するもので、WHO-BMG 共同プログラム、WHO の COVID-19 パンデミック対応、ベルリンの WHO パンデミックインテリジェンスハブに充当される予定です。

---

2023 年 2 月 7 日

## **[Longstanding WHO partners to enter into official relations with the Organization](#)**

WHO's Executive Board today welcomed The Carter Center, Inc. and the NCD Alliance into official relations with WHO..:

## **WHO : カーター・センター、NCD アライアンスと正式パートナーに**

WHO の理事会は、Carter Center, Inc. と NCD Alliance が WHO と正式な関係を結ぶことを発表しました。

カーター・センターは、カーター元米国大統領とロザリン・カーター大統領夫人がアトランタにあるエモリー大学と共同で設立し、メンタルヘルスを擁護していることでも広く知られており、WHO の貢献団体として、顧みられない熱帯病との闘いにおけるパイオニアとして知られ、1986 年以来、WHO や他のパートナーと共に、ギニアワーム病 (ドラクンキュリア症) の撲滅に取り組んでいます。

2009 年に設立された NCD アライアンスは、80 カ国以上にまたがるグローバルな市民社会運動であり、大気汚染、運動不足、不健康な食生活、アルコールやタバコの有害使用などの健康に対する共通の危険因子に取り組み、がん、心血管疾患、慢性肺疾患、糖尿病、精神衛生、神経疾患、その他の非感染性疾患に対する解決法を模索しています。

両者との新しい関係は、5 月の世界保健総会で承認される予定ですが、これにより、これらの重要なパートナー組織は、WHO のプロセスにより直接関与できるようになり、非国家主体として WHO 統治機関のセッションへの参加、議題の提案、サイドイベントの開催が可能になります。

---

2023年2月7日

## [Supporting health-care providers to make positive change: WHO launches new training tools on female genital mutilation prevention and care](#)

Two new tools are being launched by WHO and HRP to help health care providers give the best quality care to girls and women who have been subjected to female genital mutilation – and to also support global efforts to end this harmful practice and human rights violation..:

### **女性器切除の予防とケアに関する新しいトレーニングツール**

2月6日は、「女性器切除 (FGM : Female Genital Mutilation) 根絶の日」です。

WHO と HRP (国連ヒューマン・リプロダクション・プログラム) は、この有害な行為と人権侵害をなくすためのグローバルな努力を支援し、医療従事者が女性性器切除を受けた少女や女性に最高の質のケアを提供できるように、以下の2つの新しいツールを発表しました。

- 「FGM 予防のための個人を中心としたコミュニケーションガイド」：医療提供者が女性性器切除に対する自身の価値観を検討し、クライアントに力を与える方法に関する知識とスキルを構築するのに役立ちます。
- 「看護と助産のカリキュラムに女性器切除 (FGM) の内容を取り入れる実践的ガイド」：女性性器切除の予防とケアに関する内容を、助産師と看護師、そしてその他の健康提供者のカリキュラムに、体系的かつ持続可能な方法で組み込む方法について、より多くのガイダンスを求める要望に応えるものです。

---

2023年2月8日

## [WHO Director-General's closing remarks at the 152nd session of the Executive Board](#)

In the past nine days you have dealt with almost 50 agenda items and more than 30 resolutions and decisions.

I thank you especially for your work on the three strategic priorities we identified prior to the Executive Board.

First, I thank you for your support for the draft Programme Budget 2024-25, and its focus on strengthening our work in countries, while strengthening the normative and standard-setting work.

### **第 152 回 WHO 執行理事会 DG 閉会の辞**

1月30日から9日間行われた執行理事会は2月7日に閉会しました。

テドロス DG の閉会挨拶の要旨は以下の通りです。

- 9日間で、50近い議題と30以上の決議や決定を扱った。第一に、プログラム予算案 2024 - 25 への支持と、規範・基準設定作業を強化しつつ、各国での作業を強化すること



に重点を置いていることに感謝する。

- 第二に、持続可能で柔軟かつ予測可能な資金調達への支持を表明して頂いたこと、また、補充というアイデアに感謝する。
- 同時に、ガバナンス、説明責任、透明性を強化するための継続的な取り組み、および性犯罪の防止と対応に向けた我々の継続的な取り組みについても、重要な議論が行われた。
- 執行理事会が、事務局の改革に関する実施計画を支援していることに感謝する。
- 第三に、執行理事会が、健康上の緊急事態への備え、対応、回復力のためのグローバルな体制を強化するという重要な問題に関与していることに感謝する。
- WHO の医薬品と外科用外傷キットを積んだ第 1 便は、8 日の午後にトルコのアダナに到着する。
- 世界保健総会に提出された議題には、国連の膨大な活動範囲と、私たちが世界中で直面している健康問題の規模が反映されている。
- また、ウェルビーイング、ヘルスプロモーション、健康の社会的決定要因、非感染性疾患についても重要なガイダンスをいただいた。
- 創立 75 周年を迎え、パンデミック協定と国際保健規則の交渉、結核、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、パンデミックへの準備と対応に関するハイレベル会合、など私たちは大きなチャレンジの年に直面している。

---

2023 年 2 月 8 日

## [Experts call for clampdowns on exploitative formula milk marketing in new Lancet series](#)

The formula milk industry's marketing tactics are exploitative and urgent clampdowns are needed to tackle misleading claims and political interference, according to a new [three-paper series](#) published in *The Lancet* today. Industry influence – which includes lobbying against vital breastfeeding support measures – seriously jeopardizes the health and rights of women and children, the papers show.

### **Lancet 誌：専門家が搾取的な粉ミルク販売の取り締まりを呼びかけ**

本日 Lancet 誌に発表された新しい 3 つの論文シリーズでは「粉ミルク業界のマーケティング戦術は搾取的であり、彼らの誤解を招く主張と政治的干渉に対処するために、緊急の取り締まりが必要である」と述べています。

母乳育児は、子どもたちの生存と潜在能力の発達を助け、栄養面で大きな恩恵をもたらし、感染症のリスクを低減し、その後の人生における肥満や慢性疾患の発生率を低下させるなど、赤ちゃんや幼児に計り知れない、かけがえのない利益をもたらします。

しかし、生後 1 時間以内に母乳で育てられる新生児は世界全体で 2 人に 1 人程度であり、WHO

の推奨に従って、生後 6 か月未満の乳児で完全に母乳で育てられるのは半数未満で、現在、約 6 億 5 千万人の女性が十分な母性保護を受けていないと、論文では指摘しています。

Lancet シリーズの最初の論文では、乳製品・粉ミルク業界による戦略的なロビー活動、誤解を招くようなマーケティングの主張が、正常な乳児の行動に関する親の不安を直接的に利用するものであり、例えば、市販のミルク製品が騒いだり泣いたりするのを緩和する、疝痛に効く、夜間の睡眠時間を延長するなど示唆して母乳育児や乳児の世話に対する不安をあおり、親が直面する課題を増大させているとしています。

論文では、母乳育児に関するヘルスワーカーのトレーニングの拡大と母親への適切なサポートで、そのような親の不安は母乳育児でうまく対処できることを強調しています。

---

2023 年 2 月 13 日

## [WHO sends health supplies to reach 400 000 people impacted by the earthquakes in Türkiye and the Syrian Arab Republic](#)

In response to the devastating earthquakes impacting Türkiye and the Syrian Arab Republic, the World Health Organization delivered 72 metric tons of trauma and emergency surgery supplies, including treatments, to both countries to support ongoing response efforts.

### **WHO、トルコとシリアで発生した地震の影響を受けた 40 万人に向けて医療物資を送付**

トルコとシリアで発生した大地震を受け、WHO は、継続的な対応作業を支援するため、治療薬を含む 72 トンの外傷・緊急手術用物資を両国に届けました。

2 月 9 日、最初のチャーター便が 37 トンの救命物資を積んでトルコに出発し、2 便目が 10 日、35 トンの物資をシリアに届ける予定です。両便の救命物資は合計で、両国において 10 万人の治療とケア、および 12 万人の緊急外科手術に使用される予定です。第 3 便は 2 月 12 日にシリアに到着する予定で、さらに 30 万人分の緊急健康物資 37 トンを届ける予定です。

WHO は、今回のチャーター便を含め、災害発生から数時間以内に 300 万米ドルを含む 1600 万米ドル以上を緊急時対応資金から放出しました。これらの 110 トン、総額 82 万 6000 米ドルに相当する物資は、アラブ首長国連邦ドバイの国際人道都市 (IHC) 内にある WHO グローバル・ロジスティクス・ハブから送られます。

WHO は、IHC、ドバイ政府、アラブ首長国連邦政府の支援とパートナーシップにより、最も必要としている人たちにこれらの物資を迅速に輸送できたことに感謝しています。

---

2023 年 2 月 13 日

## [WHO kicks off deliberations on ethical framework and tools for social listening and infodemic management](#)

WHO has convened a panel of experts to discuss ethical considerations in social listening and



infodemic management. The aim of the ethics expert panel is to reach a consensus on ethical principles for social listening and other infodemic management activities and provide recommendations for health authorities and researchers

## WHO、インフォデミック マネジメントとソーシャル リスニングのための倫理的フレームワークとツールに関する審議を開始

WHO は、インフォデミック マネジメント (IM) とソーシャル リスニング (SL) における倫理的考察を議論するために、専門家パネルを招集しました。

インフォデミックとは、健康上の[緊急事態の際に急増する、誤報を含む過剰な情報]のことです。健康上の緊急事態においては、人々は他の時とは異なる情報を求め、受け取り、処理し、行動するため、エビデンスに基づく戦略を用いて対応することがより重要になります。IM の実践は、インフォデミオロジーという科学に裏打ちされ、近年急速に発展しています。COVID-19 パンデミック対応で開発されたツールや経験は、すでにエボラ、ポリオ、コレラなど他のアウトブレイクにも適用されています。

一方、ソーシャル リスニングとは「人々の疑問や懸念、健康に関する流布する物語や誤った情報について、オンラインとオフラインのデータソースから情報を収集するプロセス」です。ソーシャルメディア・プラットフォームから得られたデータは、アウトブレイク、地理的・人口統計的傾向、ネットワーク、感情、公衆衛生上の緊急事態に対する行動反応を特定し理解するために、様々な方法で利用されています。

しかし、こうしたデータの収集や利用には、プライバシーや同意といった倫理的な課題があり、IM や SL に関する倫理的なフレームワークが合意されていないのが現状です。この審議は、データの管理、商業化、透明性、説明責任などの問題に焦点を当て、オンラインとオフラインの両方のデータ収集、分析、報告に関する倫理的ガイドラインを検討し、健康当局がインフォデミック・インサイト・チームや活動を計画・立ち上げる際の指針となるよう、また、実務家が SL、IM を計画・実施する際の指針となるよう、それらの倫理的枠組みを構築することを目標としています。

---

2023 年 2 月 13 日

## [WHO in collaboration with IATA have trained trainers on the shipping of infectious substances](#)

The WHO Global Influenza Programme, in collaboration with the International Air Transport Association (IATA), have successfully held a training of instructors' course on the shipping of infectious substances.

### WHO : IATA と共同で、感染性物質輸送トレーナーを養成

WHO 世界インフルエンザ監視・対応システム (GISRS) は、インフルエンザ、SARS-CoV-2、RS ウイルス、その他パンデミックや流行が懸念される呼吸器ウイルスの統合監視ネットワークである GISRS Plus に拡張されようとなっているため、WHO 感染症出荷訓練 (ISST) コースを実施するスタッフをより多く養成する必要性が高まっています。

国連は、生物試料を安全に輸送するために、荷送人が訓練を受けなければならないという厳しい規制

を通じて、安全な輸送の重要性を強調しています。

WHO は全地域にまたがるインフルエンザ・ネットワーク間でウイルス分離株を共有するための能力を構築するため、WHO 世界インフルエンザプログラムでの感染性物質の輸送に関する講師養成コースを、国際航空運送協会 (IATA) と共同で WHO スタッフを対象として開催し、成功裏に終了しました。このコースは 2022 年 12 月 5 日から 9 日までシンガポールの IATA トレーニングセンターで開催され、WHO の全 6 地域から代表者が参加しました。

WHO の感染性物質輸送トレーニングプログラム ISST は 2007 年から実施され、これまでに 2000 人以上の荷主がトレーニングを受けました。初回の対面式トレーニングおよび認証の後、2 年ごとにオンライントレーニングを受けて再認証を受け、有効性を維持することができます。

---

2023 年 2 月 13 日

## [Enhancing influenza and SARS-CoV-2 sequencing capacity through hands-on training programme](#)

In 2022, 40 specialists from National Influenza Centres from 26 countries from three WHO Regions received hands-on genomic sequencing training to strengthen genomic surveillance capacities of the WHO Global Influenza Surveillance and Response System (GISRS) to conduct influenza and SARS-CoV-2 genomic surveillance – a key activity for current and future surveillance efforts. Trainings for NICs in other WHO Regions will continue this year.

### **実地研修によるインフルエンザおよび SARS-CoV-2 のシーケンシング能力向上**

2022 年、WHO の 3 地域 26 カ国の国立インフルエンザセンターの専門家 40 名が、WHO 世界インフルエンザ監視応答システム (GISRS) のゲノム監視能力を強化し、現在および将来の監視活動の鍵となるインフルエンザおよび SARS-CoV-2 のゲノム監視を実施するためのゲノム配列決定の実地研修を受けました。インフルエンザや SARS-CoV-2 のゲノムサーベイランスは、病原体の進化速度を継続的に監視し、既存および新規の変異体を特定し、病原体の拡散と対策に関する警告メカニズムを提供することを可能にするものです。

WHO は、GISRS 研究所が定点観測から収集したインフルエンザや SARS-CoV-2 陽性サンプルの配列を迅速に決定し、遺伝子配列データをメタデータと共にパブリックドメインまたはパブリックアクセスデータベースで共有することを推奨しています。

---

2023 年 2 月 13 日

## [Cholera – Global situation](#)

Since the first disease outbreak news on the [global cholera situation](#) was published on 16 December 2022, the global situation has further deteriorated with additional countries reporting cases and outbreaks..

## コレラ：世界で急拡大

2021 年半ば以降、世界は、複数のアウトブレイクの数、規模、同時発生、数十年間コレラの発生していない地域への拡大、驚くべき高い死亡率を特徴とする第 7 次コレラパンデミックの急拡大に直面しています。2021 年には、主にアフリカと東地中海の WHO 地域で、23 カ国がコレラのアウトブレイクを報告しました。2023 年 2 月 1 日現在、少なくとも 18 カ国がコレラ患者を報告し続けています。

経口コレラワクチンなどの資源がグローバルに不足していることに加え、複数の病気の発生に同時に対処している公衆衛生・医療関係者が過緊張状態にあるため、複数かつ同時に発生したアウトブレイクに対応する全体的な能力が引き続き低下しています。

WHO は加盟国に対し、コレラの疑いのある症例を早期に発見し、適切な治療を提供し、その拡大を防ぐために、特にコミュニティレベルでコレラのサーベイランスを強化・維持するよう勧告しています。

WHO は、現在入手可能な情報に基づき、加盟国に対していかなる渡航・貿易制限も推奨していません。しかし、アウトブレイクは国境を越えた移動が多い国境地域にも影響を及ぼすため、WHO は加盟国に対し、国境を越えた広がりを迅速に評価し封じ込めることができるよう、組織のあらゆるレベルにわたる協力と定期的な情報共有を確保するよう奨励しています。

---

2023 年 2 月 14 日

### [New certification recognizes WHO commitment to high-quality humanitarian learning](#)

Millions of people are affected by humanitarian crises each year. Access to high-quality learning programmes is essential to empower vulnerable communities and professionals involved in humanitarian action with the latest health knowledge to save lives.

Following the completion of an extensive independent quality review, the WHO Health Emergencies Programme (WHE) has been recognized as an approved provider for humanitarian learning by achieving [HPass certification](#).

### WHO 健康緊急事態プログラム、HPass 認証を取得

WHO 健康緊急事態プログラム (WHO Health Emergencies Programme : WHE) が、独立機関による広範囲にわたる品質審査を経て HPass 認証を取得し、人道的学習のための公認プロバイダとして認められました。HPass 認証は、WHE が世界の人道セクターにおいて国際的に認められたベストプラクティスに基づく 8 つの品質基準の基準を満たしていることを確認するものです。

HPass の認証を受けた学習プロバイダーは、WHO の専門家チームが開発した 190 の OpenWHO.org オンラインコースから、健康緊急事態におけるリーダー向けの高度に専門化した混合トレーニングまで、高品質の学習製品とサービスに対する明確な取り組みを実証しています。

(注) HPass 認証：人道的専門能力開発の支援を目的として、ヒューマニタリアンリーダーシップアカデミーが管理し、11 の組織からなる運営委員会が監督する認証制度

---

2023年2月14日

## [WASH and health working together: a 'how-to' guide for neglected tropical disease programmes, second edition](#)

This toolkit provides step-by-step guidance to NTD programme managers and partners on how to engage and work collaboratively with the WASH community to improve delivery of water, sanitation and hygiene services to underserved population affected by many neglected tropical diseases. The toolkit draws on tools and practices used in the delivery of coordinated and integrated programmes for control, elimination and eradication of NTDs. This second edition include revisions and new tools based on experiences of using the toolkit in more than 20 countries.

### **WASH と健康は共にある：顧みられない熱帯病プログラムのための「ハウツー」ガイド第 2 版**

この「ハウツー」ガイド第 2 版は、顧みられない熱帯病 (NTD) のプログラムマネージャーやパートナーに、NTD の影響を受けている恵まれない人々への水、衛生、保健サービスの提供を改善するために、WASH コミュニティとどのように関わり、協力し合うかについて段階的な指針を示すものです。第 2 版では、20 カ国以上で使用された経験に基づき、改訂や新しいツールも含まれています。

(注) WASH : Water, Sanitation and Hygiene 水、トイレ、衛生

---

2023年2月14日

## [Adaptation and implementation of WHO's multisectoral accountability framework to end TB \(MAF-TB\): best practices](#)

This compilation of best practices includes case studies on adaptation and implementation of WHO's Multisectoral Accountability Framework to end TB (MAF-TB) to support effective collaboration and accountability of governments and stakeholders at the global, regional and country levels to propel progress towards ending the TB epidemic. It includes case studies on adaptation and implementation of the MAF-TB at the national and local level from all six WHO regions, and brings together a wide variety of country and stakeholder experiences and lessons learnt that can serve as a role model for other countries..

### **WHO「結核撲滅のための多部門説明責任フレームワーク (MAF-TB) 適応と実施」ベストプラクティス**

このベストプラクティス集には、結核の終焉に向けた進展を推進するため、世界、地域、国レベルの政府や関係者の効果的な協力と説明責任を支援する WHO の結核撲滅のための多部門説明責任枠組み (MAF-TB) の適用と実施に関するケーススタディが含まれ、WHO の 6 つの地域すべてにおける国および地域レベルでの結核廃止フレームワークの適応と実施に関するケーススタディが含まれており、他の国々のロールモデルとなりうる国やステークホルダーの経験や教訓が幅広く集められています。

またこの文書は、次回の「結核に関する国連人権委員会 (UNHLM)」に向けて、各国首脳による包括的な見直しの準備に役立つものです。

---

2023年2月16日

## [Countries unite to remove mercury from hazardous skin lightening products](#)

The governments of Gabon, Jamaica and Sri Lanka have joined forces to fight back against damaging beauty practices, launching a joint US\$14-million project to eliminate the use of mercury in skin lightening products..

### **有害な美白化粧品から水銀を除去するために各国が一致団結**

ガボン、ジャマイカ、スリランカ政府は、有害な美容習慣に対抗するために力を合わせ、美白化粧品に含まれる水銀の使用を廃止する 1,400 万米ドルの共同プロジェクトを立ち上げました。

美白効果のある化粧品を使ってメラニンの生成を抑え、肌を明るく見せることは、世界各地で何世紀にもわたって行われてきた習慣です。しかし、現在も有害な犠牲を払い続けており、美白化粧品は使用者だけのリスクではなく、母乳を通して子どもがさらされる可能性もあり、化粧品が排水に流されると食物連鎖が汚染される可能性があります。さらに、この化合物は飛散地点から遠く離れ、環境中で分解されることなく、地球、水、土壌に蓄積される可能性があり、美白製品に有害な成分を使用することは世界的な問題であると言えます。

国連環境計画 (UNEP) が主導し、地球環境ファシリティ (GEF) が資金を提供し、WHO と生物多様性研究所 (BRI) が実施する「水銀含有美白製品撲滅プロジェクト」は、水銀含有美白製品にさらされるリスクを減らすために、その使用に伴う健康リスクの認識を高め、その流通を減らすためにモデル規則を策定し、国内および国際市場での生産、取引、流通を停止させようと取り組んでいるものです。

---

2023年2月16日

## [WHO Director-General's panel remarks at High-Level Plenary Session of the G-STIC Global Conference – 13 February 2023](#)

Today I'm joining you from Damascus, in the Syrian Arab Republic, where I have been visiting areas affected by the devastating earthquake that hit this region one week ago..

### **G-STIC 世界会議ハイレベル本会議での WHO 事務局長発言**

G-STIC : Global Sustainable Technology & Innovation Conference (持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けた世界的な動きを促進することを目標に開催される会議) に、WHO テドロス事務局長 (DG) が、大地震被災地のダマスカスから参加し、以下の発言を行いました。

- 2月に発生したトルコ、シリア地震に対して WHO は、医薬品の提供、怪我や精神疾患を持つ



人々への専門的な医療の支援など、さまざまな支援を行っている。

● 健康関連の SDGs 目標の進捗は、2030 年までの達成に必要な 4 分の 1 に過ぎず、WHO は、SDGs に向かう国々を支援するための 5 つの優先事項「5P」を示した。

1. promoting health : 病気や怪我の根本的な原因に対処するためのパラダイムシフトによる健康の促進。
2. providing health : プライマリーヘルスケアに向けた保健システムの再構築による「健康の提供」。
3. protecting health : 健康を守ることで、健康上の緊急事態への準備と対応のためのグローバルな体制を強化。
4. powering health : 科学、研究、イノベーション、データ、デジタル技術、パートナーシップを活用することにより、健康を強化。
5. performing for health : より強く、より機敏で、持続可能な資金調達を行う WHO を構築することで、健康のための活動を行う。

---

2023 年 2 月 16 日

## [ICD-11 2023 release is here](#)

ICD-11 came into in effect in January 2022 for the national and international recording and reporting of causes of illness, death - and more.

### 国際疾病分類 ICD-11 (2023) をリリース

ICD-11 は 2022 年 1 月に発効し、国内および国際的な病名や死因の記録・報告などに使用されます。ICD-11 の 2023 年版では、ICD-11 の最先端のコーディングシステム、およびより良い健康情報のための多言語アクセスの利点をさらに強化し、活用しています。概要は以下の通りです。

- 2023 年リリース版は、2022 年以降に処理された 500 件以上の提案を持つアーリーアダプター、翻訳者、科学者、パートナーから提供された広範な情報を反映。
- ICD-11 は、医療コーディングを変更するだけでなく、ヘルスケアをすべての人にとってより利用しやすいものになっている。
- ICD-11 は、アラビア語、中国語、英語、フランス語、スペイン語で ICD-11 へのアクセスを提供する多言語対応ブラウザを展開。
- ICD-11 では多言語対応に加え、コーディングのサポートが新しく改善され、メンテナンスのプラットフォームもアップグレード。
- ICD-11 マッピングテーブルがより正確に更新され、用語の視覚化が進み、ICD-11 の基盤をより深く理解することができるポストコーディネーションオプションが追加。



- 現行の COVID-19 ワクチンや SARS-COV-2 サブタイプのリストなど、内容の更新。
- ICD-11 のリファレンスガイドは、翻訳者やユーザーからのフィードバックにより更新され、オンラインで利用できるのもので、病的状態や死亡率のコーディングルールを含む ICD-11 のさらなるガイダンスを得ることができる。
- ICD-11 の使用条件は [icd.who.int](http://icd.who.int) で確認でき、そのメニューから ICD-11 のアップデートや以前のリリースをダウンロードすることが可能。
- 死亡率と罹患率の特別集計リストはオンラインで公開されているが、今回、これらのリストをより簡単に編集できる新しい電子プラットフォームが利用可能となった。

---

2023 年 2 月 16 日

## [Message by the Director of the Department of Immunization, Vaccines and Biologicals at WHO - February 2023](#)

WHO, along with the IA2030 partners, has established 2023 as an intensified year of action on immunization.

### **WHO : 2023 年を予防接種に関する行動強化年として設定**

WHO 予防接種・ワクチン・生物学部門ディレクターのケイト・オブライエン氏のメッセージ (要約) は以下の通りです。

- WHO は、IA2030 (予防接種アジェンダ 2030) パートナーとともに、2023 年を予防接種に関する行動強化年として設定。
- この行動要請は、各国の予防接種プログラムがパンデミックの影響を評価し、必要な場合には軌道修正することの重要性を認識したものの。
- これには、様々なプログラムのアプローチにより、蓄積されたゼロドーズ児(ジフテリア・破傷風・百日咳を含むワクチンの初回接種を受けていない子供)をキャッチアップすること、DTP1 接種率のプログラムパフォーマンスを少なくとも 2019 年 (パンデミック前) のレベルまで回復させること、DTP1 接種率をパンデミック前のレベルよりも向上させ、2025 年と 2030 年のゼロドーズ目標 (つまり、2030 年までに 2019 年の半分のゼロドーズ児を達成) を達成するための予防接種プログラムの強化が必要であることが含まれる。
- COVID パンデミックの経験から得られた政治的リーダーシップと予防接種の優先順位を活用することは、数百万人の命を救うチャンスである。IA2030 の 10 年間で 5,000 万人の命を救うという野望は、この協調的な行動にかかっている。
- データはすべての活動の鍵で、すべての加盟国、報告機関、準加盟国が利用できるオンライン予防接種データ収集ポータルサイト eJRF への参加を希望する。

2023年2月16日

## [WHO Urgent Marburg Meeting](#)

The WHO R&D Blueprint organized an urgent meeting with the MARVAC partners to discuss vaccine and therapeutic candidates.. .

### **WHO 緊急マールブルグ会議**

マールブルグ病は、MVD と呼ばれ、致死率が 24 % から 88 % に及ぶこともある感染力の強い病気で 1967 年に初めてウイルスが確認されたドイツの町の名前から名付けられました。このウイルスは、エボラと同じフィロウイルス科に属し、感染者の体液や表面、物質などに直接接触することでヒトの間に広がります。アフリカでは、コンゴ民主共和国、アンゴラ、ウガンダで周期的にアウトブレイクが報告されていますが、赤道ギニアではこれまで一度も発生していませんでした。

WHO R & D Blueprint は、MARVAC (マールブルグウイルスワクチン共同体) パートナーとの緊急会議を開催し、ワクチンと治療薬の候補について議論しました。

この緊急会議は、赤道ギニアで新たに確認されたマールブルグのアウトブレイクに向けた研究の優先順位の提案の概要を説明するために招集されました。

---

2023年2月16日

## [Fourth meeting of the International Health Regulations \(2005\) \(IHR\) Emergency Committee on the Multi-Country Outbreak of monkeypox \(mpox\)](#)

The WHO Director-General expresses his gratitude to the Chair, Members, and Advisers for their advice and concurs with this advice that the event continues to constitute a PHEIC for the reasons detailed in the proceedings of the meeting below and issues revised Temporary Recommendations in relation to this PHEIC, which are presented at the end of this document. .

### **エムポックス (mpox) : 国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) を維持**

WHO は世界の専門家との一連の協議を経て、昨年来流行が認められた monkey pox (サル痘) の同義語として「mpox」という新しい用語を推奨しています。monkey pox という用語が段階的に廃止されるまでの 1 年間は、両方の名称が同時に使用される予定です。

国際保健規則 (2005) (IHR) 緊急委員会の第 4 回 会合が開催され、事務局長は委員会の助言に同意し、mpox に関する「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) 」が維持されることになりました。

---

2023年2月20日

## [Integrating health in urban and territorial planning: the directory](#)

The directory is an online repository of more than 100 open access resources and tools that provide information on the importance of planning and designing urban areas from a health perspective, as well as concrete guidance on how to do it. .

### **健康に統合した都市・地域計画の為のディレクトリ**

このディレクトリは、健康の観点から都市を計画・設計することの重要性に関する情報や、そのための具体的なガイダンスを提供する 100 以上のオープンアクセスのリソースやツールのオンラインリポジトリで、都市計画や地域計画において健康を考慮することの重要性を説明したリソース、健康の観点から都市を計画・設計することによる健康や社会経済への影響を定量化するツール、成功した取り組みの説明、または都市計画と健康に関するトレーニング教材などが含まれています。

---

2023年2月21日

## [World Hearing Day 2023 \(3 March\)](#)

Theme: Ear and hearing care for all! Let's make it a reality .

### **世界耳の日 (3月3日) と WHO トレーニングマニュアル**

2023 年の世界耳の日テーマは、『Ear and hearing care for all ! Let's make it a reality (仮訳 ; すべての人に耳と聴力のケアを ! それを実現させよう) 』で、「ユニバーサルヘルス カバレッジの不可欠な要素として、耳と聴覚のケアをプライマリ ケアに統合することの重要性を強調します。WHO は新しいトレーニングマニュアル「Primary ear and hearing care training manual」を発表します。このマニュアルには、トレーナーのハンドブックやその他のコミュニティ リソースが付属しています。

#### **《世界耳の日、主要メッセージ》**

- 耳と聴力の問題は、地域社会で遭遇する最も一般的な問題の一つ。
  - これらのうち 60 % 以上は、プライマリーケアレベルで特定し、対処することが可能
  - 耳と聴覚のケアをプライマリーケアサービスに統合することは、このレベルでのトレーニングと能力開発によって可能となる。
  - このような統合は、人々に利益をもたらし、各国がユニバーサル・ヘルス・カバレッジの目標に向かって前進する助けとなる。
-

2023年2月21日

## [Supporting the routine use of evidence during the policy-making process: a WHO checklist](#)

This WHO checklist is for any organization or person supporting the routine use of evidence in the process of policy-making. Evidence-informed policy-making (EIPM) is essential for achieving the Sustainable Development Goals (SDGs) and universal health coverage (UHC).

### **政策決定過程における日常的なエビデンスの活用を支援する、WHO チェックリスト**

持続可能な開発目標 (SDGs) とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の達成には、エビデンスに基づいた政策立案 (EIPM: Evidence-informed policy-making) が不可欠です。

この WHO のチェックリストは、Evidence-Informed Policy Network (EVIPNet) 事務局が、政策決定プロセスにおけるエビデンスの日常的な活用を支援するあらゆる組織や人のため、加盟国の EIPM の制度化を支援するために作成されました。

EIPM の強化に取り組む政府機関 (すなわち保健省のスタッフ)、知識の仲介者、研究者は、このチェックリストの中で、彼らの仕事に役立ついくつかの重要なステップとツールを見つけることができるでしょう。EVIPNet の主要なターゲット グループは医療セクターですが、このツールはさまざまな社会セクターの利害関係者にも適用できます。

---

2023年2月22日

## [Situation Report: Greater Horn of Africa Food Insecurity and Health - Grade 3 Emergency — 15 November 2022 - 31 December 2022](#)

The Greater Horn of Africa (GHOA) countries are facing a serious food insecurity crisis due to failed rainy seasons as well as flooding in other areas and various other factors.

### **アフリカの角：食料不安と健康の危機が続く**

WHO はアフリカの角 (ソマリ人が多く居住する区域で、アフリカ大陸東端のソマリア全域とエチオピアの一部などを占める半島一帯地域。サイが右を向いた形からそう呼ばれる) における食料と健康に関する状況報告 (2022.11.15 ~ 12.31) を発表しました。

対象国は GHOA と呼ばれるジブチ、エチオピア、ソマリア、スーダン、南スーダン、ケニア、ウガンダの 7 カ国で、概要は以下の通りです。

- アフリカの角 (GHOA) 諸国は、雨季の失敗だけでなく、他の地域での洪水やその他の様々な要因によって、深刻な食糧不安の危機に直面している。
- 現在進行中の気候危機、既存の紛争、世界的なインフレにより、4,600 万人以上の人々が深刻な食糧不足の危機にさらされている。
- ソマリアでは、1 週間に 300 人のコレラ患者が発生しており、ケニアでは 10 月以降 3,306 人のコレラ患者が発生している。

- 麻疹の予防接種キャンペーンは実施されていますが、複数の地域で大規模なアウトブレイクが GHoA 7 カ国すべてで流行しているのが現状。
- 2023 年 4 月から 6 月の間に、ソマリア全体で推定 830 万人（評価対象総人口の 48 %）が IPC フェーズ 3+（必要不可欠な財産を売ることでは最低限の食料ニーズを満たすことができない）の食糧不安に直面すると予測される。
- ウガンダの不作期と降雨量の減少により、この地域では高度の急性栄養失調患者が再び発生する可能性が高いと予測されている。
- ケニアの干ばつ状況は、依然として危機的な状況にある。
- 12 月 31 日現在、WHO のアピール 1 億 2380 万米ドルのうち、43 % しか資金が提供されていません。未曾有の罹患率と死亡率を軽減するために、追加の資金とリソースを迅速に特定する必要があります。

注）本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノートの原文をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>